

シグマ研究委員会光核反応データWG 1992年度第2回会合議事録

日時：1992年9月3日(木) 13:30 - 16:00

場所：原研本部会議室

出席者：浅見、五十嵐、井頭、岸田、喜多尾、北沢、千葉、村田

欠席者：井口、小林、肥田

議事：

1. 一般報告事項

- (a) 今年度の核データ研究会から各WGの活動状況をポスター発表で紹介することになった。

2. 評価関連事項

- (a) 請求中のIAEAのNew Photonuclear Data in EXFORがNEA/Data-Bankより核データセンターに到着した。

3. 評価中間報告

- (a) 村田 (^{12}C) : (γ , abs.)、(γ , xn)、(γ , xp)、(γ , 3α)をresonance fittingで評価。
(γ , abs.)に関してはChadwickのQDM断面積を含めて140 MeVまでfitしている。この際、Chadwickの断面積はPauli Blockingが効きすぎ実験値を過小評価するので、適当な補正倍率を乗じてfittingを行なっている。また、(γ , xp)のエネルギースケールが0.7 MeVほど低すぎるようである。後は、各種反応の分岐比の計算が残っているが、どの様なモデルを使用したら良いかを目下検討中である。
- (b) 岸田 (^{27}Al) : GDR領域に関しては、(γ , abs.)と2つの(γ , xn)の実験値を誤差を重みとして同一の共鳴巾と共鳴エネルギーを用いたfittingを行なって評価値を決定。QDM領域はChadwickの断面積だけではかなりの過小評価なので、補正係数を掛けて実験値に合わせてしまうか、または直接過程の寄与を考慮した評価を行うことを考えている。
- (c) 五十嵐 (^{209}Bi) : 評価エネルギー点を細かくすることを除いて、評価完了。

4. その他

- (a) Consultants' Meeting on "Charged-Particle and Photonuclear Data Libraries" for the IAEA FENDL Project at BNL on 8-9 Oct. 1992で、本WGの活動状況を報告することになった。この会議では、JNDCでのFile化完了および公開

予定時期について議論になる可能性があるが、本 WG としては公開時期についての国際公約をするつもりはない。ただし、FENDL 用に優先的に評価して欲しい核種が存在するなら、できるだけその希望には応じることにする。

- (b) 92BNL Symposium における本 WG の評価状況の紹介では、評価例として¹²C or ¹⁶O、²⁷Al、²⁰⁹Bi とあと 1 核種をいどを取り上げる予定である。ついては、評価値と実験値を入れたフロッピーを 9/18 日までに岸田委員に送付して欲しい。
- (c) ¹²C の評価は北沢委員が了承したので村田委員が引き継ぐことになった。
- (d) 浅見委員が作成中の最新版の Photonuclear Data Index を各委員に送付する。
- (e) ⁵⁸Ni と ⁶⁵Cu の評価は、千葉委員と喜多尾委員に代わって岸田委員が担当する。

5. 次回予定

- (a) 次回は平成 4 年 12 月 10 日 (木) に原研本部で開催予定。
- (b) 主な内容は、
 - i. 一般連絡事項
 - ii. 各委員より光吸収断面積もしくは中性子放出断面積の評価最終結果報告。

配布資料：

- PNWG-92-8 : ²⁷Al+ γ 反応評価 (岸田)
- PNWG-92-9 : Carbon photo-reaction 評価 (村田)
- PNWG-92-10 : Evaluation of Photoreaction Nuclear Data on ²⁰⁹Bi (五十嵐)